

教育課程実施状況調査



「社会的な思考・判断・表現」が良好である

- ・中3社会科は、教科全体の正答率が56.8%で、目標値を1.4ポイント上回った。
- ・観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも「社会的な思考・判断・表現」が52.5%で、目標値を1.7ポイント上回った。

対称児童数	設問数	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率
626人	28問	56.8%	55.4%	1.4	55.5%

種別		設問数 (問)	県正答率 (%)	目標値 (%)	県-目標値 (ポイント)	全国正答率 (%)	
問題の内容	基礎・活用	教科全体	28	56.8	55.4	1.4	55.5
		基礎	21	60.2	58.8	1.4	59.0
		活用	7	46.6	45.0	1.6	44.9
	領域	世界と比べた日本の地理的特色	7	69.3	65.0	4.3	67.0
		日本の諸地域	4	54.2	55.0	-0.8	53.9
		身近な地域の調査	2	46.1	50.0	-3.9	49.8
		近世の日本	10	57.7	56.0	1.7	56.7
		近代の日本と世界	5	44.1	43.0	1.1	40.7
評価の観点	社会的現象への関心・意欲・態度	7	47.9	46.4	1.5	47.2	
	社会的な思考・判断・表現	10	52.5	50.8	1.7	51.1	
	資料活用の技能	19	56.7	55.8	0.9	56.5	
	社会的事象についての知識・理解	27	57.4	56.0	1.4	55.6	
解答形式	選択式	20	56.6	55.5	1.1	55.5	
	短答式	6	57.8	55.8	2.0	56.5	
	記述式	2	56.5	52.5	4.0	52.3	

設問別正答率

通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域					出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均	
		関	思	技	知			目 特	日 諸	身 調	近 世	近 代					
1	選択			○	◎		世界と比べた日本の地域的特色	○					環太平洋造山帯の特色について理解している。	56.7	65.0	60.2	
2	短答			○	◎			○						季節風について理解している。	93.4	85.0	90.9
3	選択			○	◎			○						三角州について理解している。	65.2	55.0	54.9
4	選択		◎	○	○			○						世界各地の気候について、雨温図を判断することができる。	83.1	75.0	82.3
5	選択	○		◎				○						情報通信網の発達について、複数の資料をもとに把握することができる。	60.2	55.0	61.4



中3社会



通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域					出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均	
		関	思	技	知			日 特	日 諸	身 調	近 世	近 代					
6	記述	○	◎	○	○	表	世界と比べた日本 の地域的特色	○					日本の産業について、産 業の分類に関する理解を もとに、複数の資料を読 み取り、表現することが できる。	72.4	65.0	66.8	
7	短答			○	◎		日本の諸地域		○				北海道地方や九州地方の 涼しい気候で発展した酪 農について理解してい る。	51.0	50.0	51.6	
8	選択		○	◎	○				○				日本の工業地帯・工業地 域の工業生産について、 資料をもとに把握するこ とができる。	69.3	75.0	72.1	
9	選択				◎				○				東北地方の地形や産業、 行事について理解してい る。	57.8	55.0	52.9	
10	選択		◎	○	○		世界と比べた日本 の地域的特色	○					日本の人口と過疎・過密 問題について、人口ピラ ミッドをもとに考察する ことができる。	54.2	55.0	52.4	
11	短答			◎	○		身近な地域の調 査			○			縮尺に着目して地形図を 読み取ることができる。	43.0	45.0	45.6	
12	選択			◎	○					○			地形図を読み取ることが できる。	49.2	55.0	54.0	
13	選択			○	◎		ヨーロッパ人と の出会いと全国 統一				○		織田信長と豊臣秀吉の業 績について理解してい る。	20.0	30.0	18.4	
14	選択		◎	○	○	思						○	織田信長と豊臣秀吉によ る政策について、資料を もとに判断することがで きる。	51.3	45.0	45.5	
15	短答				◎							○	織田信長の統一事業につ いて理解している。	63.3	60.0	60.3	
16	短答				◎							○	織田信長の統一事業につ いて理解している。	71.6	65.0	68.7	
17	選択			◎	○		江戸時代					○	江戸幕府による大名統制 について、資料を読み取 ることができる。	83.7	75.0	82.6	
18	選択	○	◎	○	○	思						○	江戸時代の貨幣経済の広 がりについて、資料をも とに判断することができ る。	36.7	40.0	41.9	
19	選択				◎								○	江戸時代の文化について 理解している。	91.2	80.0	88.7
20	選択				◎								○	江戸幕府による政治改革 について理解している。	57.7	60.0	61.4
21	選択				◎								○	尊王攘夷運動の高まりに おける、長州藩の外国船 砲撃について理解してい る。	61.5	65.0	61.3
22	選択				◎		明治時代					○	明治政府による改革の流 れについて理解してい る。	52.6	50.0	49.6	

①

教育課程実施状況調査



通し番号	解答形式	観点				活用観点	問題の内容	領域					出題のねらい	県正答率	目標値	全国平均
		関	思	技	知			日特	日諸	身調	近世	近代				
23	短答				◎		明治時代					○	地租改正について理解している。	24.6	30.0	21.8
24	選択				◎		明治時代					○	国会開設の勅諭と政党の結成について理解している。	56.1	50.0	48.3
25	選択	○	◎	○	○	思						○	明治政府による改革について、資料をもとに判断することができる。	28.6	35.0	29.8
26	記述	○	◎	○	○	表	ヨーロッパ人との出会いと全国統一				○		織田信長の統一事業について資料をもとに考察し、表現することができる。	40.6	40.0	37.8
27	選択	○	◎	○	○	思	明治時代					○	明治政府による改革について、複数の資料をもとに判断することができる。	58.5	50.0	54.0
28	選択	○	◎	○	○	思	日本の諸地域		○				北海道地方の観光業に関する課題について、複数の資料をもとに判断することができる。	38.5	40.0	38.8

①②は目標値を上回る設問を、①②は課題となる設問を示している。

【目標値を上回る設問】① 通し番号3

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	65.2	55.0	10.2	54.9	10.3	知	選択
問題の内容	世界と比べた日本の地域的特色						
出題のねらい	三角州について理解している。						

【目標値を上回る設問】② 通し番号24

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	56.1	50.0	6.1	48.3	7.8	知	選択
問題の内容	明治時代						
出題のねらい	国会開設の勅諭と政党の結成について理解している。						

【課題となる設問】① 通し番号12

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	49.2	55.0	-5.8	54.0	-4.8	技	選択
問題の内容	身近な地域の調査						
出題のねらい	地形図を読み取ることができる。						

【課題となる設問】② 通し番号25

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	28.6	35.0	-6.4	29.8	-1.2	思	選択
問題の内容	明治時代						
出題のねらい	明治政府による改革について、資料をもとに判断することができる。						



授業改善の POINT

中3社会



- 「社会的な思考力・判断力・表現力」を育成するための授業改善の継続
- 学び方の習得を目指した調査活動の位置付け

全体として全国平均を上回っており、用語等を答える設問については、いずれの分野・領域においても比較的高い正答率を示している。用語等の習得に向けた各校での取組の成果だといえる。また、経年的な課題であった「社会的な思考・判断・表現」に関する問題についても目標値を上回っている。社会科の「見方・考え方」を働かせた読解力の育成を目指すとともに、用語や事象について単なる言葉として捉えるのではなく、その背景や因果関係を理解した上で、その言葉がもつ「本質」を理解できるようにすることを意識した授業改善の成果と考えられる。このような授業改善の視点を継続していくことが必要である。一方、改善はみられるものの、資料をもとに判断する設問については課題とみることができる。また、身近な地域の調査等、調査方法に関する設問についても課題と言える。これらを踏まえ、3つの視点から授業改善のポイントを示す。

(1) 実践の中への「発問」の位置付け

- ・身に付けさせたい資質・能力の育成につながる発問になっていますか？
- ・ねらいにせまるために発問が構成されていますか？

(2) 資料を使って考えたり、説明したりする活動の設定

- ・「発問」を追究する場面で根拠となる資料を継続的に活用していますか？
 - ・生徒が必要を感じるような資料提示の工夫をしていますか？
 - ・調査活動など生徒が自力解決に挑戦できるような場面を設定していますか？
- また、調査方法等の「学び方」に関する指導を意識していますか？

(例) 大問3(2)に関連して

地形図の読み取りでは、縮尺、方位、等高線、地図記号の4点を理解していることが必要となる。

- ①縮尺は実際の距離を縮小した割合であること。
- ②方位は、地形図では図の上部が北になり、下部が南になること。
- ③等高線は高さの等しい地点を結んだ線で、間隔によって傾斜を読み取ることができること。
- ④地図記号は、建物や土地利用、交通路を表すものであること。

このような技能を繰り返し活用する場面を意図的・計画的に設定していく必要がある。

(3) 単元等のまとまりを見通した授業デザイン

- ・単元等で身に付けさせたい資質・能力は明確になっていますか？
- ・生徒が問いを追究できるような単元等の計画になっていますか？